

島根県立大学
国際関係学部 国際関係学科
国際関係コース

令和8年度（2026年度）
一般選抜（前期日程）

小論文 出題意図・ねらい

令和8年度入試出題意図・ねらい
国際関係コース 入試区分名（一般選抜前期日程・小論文）

全体
第二次世界大戦の終結から80年を経て、2025年には戦争を振り返る特集報道が多くなされたが、国際関係を大学で学ぼうとする志願者も関心を持って見聞きしたことであろう。国家中心の戦争遂行だけではなく、「社会戦争」という観点から戦争画を読み解く文章を読み、内容把握を通じて自己の見解をまとめさせることによって、国際関係コースでの専門性を修得する上で必要となる国際関係への関心がどの程度育成されているかを確認することをねらいとした。具体的には、基本的な文章読解力、説得力のある論理展開力と表現力・思考力、多様な価値観が交差する中で生じる社会的軋轢や文化的抗争が進行する現代的な状況に対する理解を踏まえた主体的な探究心の有無を総合的に評価することをねらう出題とした。
問1
国家戦争と社会戦争とでは戦争画の鑑賞の仕方が異なることを、文章中の表現を的確に用いて説明できるかを問うた。
国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点
<ul style="list-style-type: none">・ 《求める人材》1.知識・技能（1）「国際関係コースの専門分野を学ために必要となる、世界や日本の近代・現代社会についての基礎的な知識及び教養」、（2）「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。・ 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」・ 《選抜の基本方針》における「国際関係コースでの専門性を修得する上で必要となる国際関係への関心」、「表現力・思考力」が発揮されているかを見る。
問2
国家の論理を梃子にした草の根の社会保守勢力が、社会の変化を抑え込み一体感を回復するために試みることを、文章に即して読み取ることができるかを問うた。
国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点
<ul style="list-style-type: none">・ 《求める人材》1.知識・技能（2）「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。・ 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用

する力」を見る。

《選抜の基本方針》における「国際関係コースでの専門性を修得する上で必要となる国際関係への関心」、「表現力・思考力」が発揮されているかを見る。

問3

国内において多様な価値観が交差する中で生じる社会的軋轢や文化的抗争が進行する現代的な状況を、「社会戦争」の文脈で捉え直すという著者の主張に対して、これまでの学習経験や学習成果を関連づけて自らの見解を記述できるかを問うた

国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点

- ・ 《求める人材》1.知識・技能（1）「国際関係コースの専門分野を学ために必要となる、世界や日本の近代・現代社会についての基礎的な知識及び教養」、（2）「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」、2.思考力・判断力・表現力（1）「北東アジアをはじめとする国際社会や、グローバル化が進む日本国内の社会が抱える諸課題について、根拠に基づき論理的な道筋を立てて考察し、自らの意見を説得力のある形でまとめ、他者に伝える力」、3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（1）「北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会、またグローバル化した国内社会が抱える課題に強い関心を持ち、背後にある歴史や地域的特性について主体的に探求しようとする姿勢」を見る。
- ・ 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」、4「地理歴史・公民の知識を総合的に関連づけて問題意識を養い、自己の体験総体を生かして幅広い視野から日本及び世界で生じている複雑な現象を考察しようとする意欲」を見る。
- ・ 《選抜の基本方針》における「国際関係コースでの専門性を修得する上で必要となる国際関係への関心」と「主体的な探究心、協働性・多様性への理解」が読み取れるような「表現力・思考力」が展開されているかどうかを見る。